

授業科目名	人権論(2000052)		
時間割名	人権論(54104)		
時間割担当	小林直樹		
実施期	後期	単位数	2 選択
曜日・時限	金・4		

授業の目標・概要

歴史上、「人権」は個人対国家権力の脈絡で語られ、近代市民革命の原動力になったといわれる。その後、第2次世界大戦における国家規模による人権抑圧・弾圧（ナチス・ドイツにおける「ホロコースト」）への反省を踏まえ、戦後は国際的に「人権」の保障がうたわれ、21世に入ると「人権」の保障は普遍的なものと考えられるようになった。しかし、日本ひいては世界を見渡すと「人権」の問題は極めて深刻であるといえる。つまり、個人対国家の脈絡における人権問題と、さらには個人と個人、個人と集団、集団と集団との間における人権問題が惹起し、そこに潜む様々な利益の対立・軋轢（人種・信条・宗教など）が問題の解決を困難にしている。本講義では、これらの現代社会における人権問題を考えていく。具体的には、人権に関する歴史的な流れを踏まえながら、人権保障（法における保障）にベースに学んでいく。そこでは、近現代の日本国内に潜む人権問題および諸外国の人権問題について学ぶ。

学習の到達目標

「人権」の誕生および「人権」の保障の意義について理解する。社会にひそむ「人権」に関する社会問題を発見する。種々の人権問題について自分の考えや意見をまとめる。

授業方法・形式

WEBで配布するプリントをもとに講義。また、視覚教材として、ニュース番組や報道特別番組などを見たうえで議論することもある。講義終了時に小レポートを実施することもある。

授業計画

- 第 1 回 オリエンテーション 「人権」を理解するとは？
- 第 2 回 人権の誕生
- 第 3 回 人の命にかかわる問題
- 第 4 回 人の命にかかわる問題
- 第 5 回 人の生き方にかかわる問題
- 第 6 回 人の生き方にかかわる問題
- 第 7 回 性別にかかわる問題
- 第 8 回 性別にかかわる問題
- 第 9 回 子どもにかかわる問題
- 第10回 子どもにかかわる問題
- 第11回 高齢者にかかわる問題
- 第12回 人種・民族等にかかわる問題
- 第13回 人種・民族等にかかわる問題
- 第14回 人種・民族等にかかわる問題
- 第15回 まとめ これからの「人権」のありようを考える

成績評価の基準

第15回を終えて定期試験を実施。定期試験(60%)、小レポート(30%)、講義中の質疑応答など(10%)。

授業時間外の課題

日々の事件等をテレビや新聞、インターネットで確認し、そこにどのような人権問題が潜んでいるのかについて考え、ノートなどにメモする。講義では、そのメモについて質問することがある。

メッセージ

第1回目に講義用プリントの入手方法および講義の進め方について説明するので、受講生は必ず出席すること。講義中、質疑応答を行うのでうたた寝しないようにすること。私語に対しては厳しく対応する(1度注意したにもかかわらず、何度も注意を受ける場合は、講義の静謐な環境を維持するためにも退室を命ずる)。このほか、可能であれば日本国憲法を履修することで、「人権」への理解が深まると思われる。

教材・教科書

配布するプリント。

参考書

ジョン・ロールズほか『人権について』（みすず書房、2005）、樋口陽一『一語の辞典 人権』（三省堂、2007）、辻村みよ子『人権をめぐる十五講』（岩波書店、2013）ほか、適宜指示する。